

友史会2023年11月例会

「蘇我氏の領域を歩く」

11月19日（日）集合：橿原神宮前駅中央口10時

案内： 鶴見泰寿 檀考研資料係長

コース：橿原神宮前駅→軽寺跡→五条野丸山古墳→植山古墳

→菖蒲池古墳（石室には 入れません）

・小山田古墳（学校敷地内につき立ち入りできません）

→甘檜丘東麓遺跡（昼食）→豊浦宮・豊浦寺跡・甘檜坐神社→小墾田宮跡

→明日香村埋蔵文化財展示室→石神遺跡・水落遺跡→飛鳥寺西方遺跡

→飛鳥京跡苑池・飛鳥宮跡（現地解散）

11月例会は、秋空のもと資料係長の鶴見泰寿先生の案内により、142名の会員が集まった。蘇我氏の領域では、現在の橿原市南東部から明日香村北西部あたり、ちょうど甘檜丘の東西のエリア、およそ8kmの距離で、蘇我氏の跡をたどっていった。

スタートは橿原神宮前駅で「軽衢」（かるのちまた）という古代のみち下ツ道と阿部山田道の交差するところから歩き始め、蘇我氏の時代から交通の要に位置していた。次に、後に藤原道長が吉野参詣の途上に泊ったとされる軽寺跡を経て、橿原市側の古墳の集まる丘陵部へ。まず五条野丸山古墳は巨大な前方後円墳。後円部の縁に上がるために草ぼうぼうの斜面を一人ひとりロープ伝いに登るようにしたため、ロープを支え持った私に参加者から「まるでアスレチックですね」と声をかけられたりした。古墳の見学には常に「被葬者は？」という問いが伴う。鶴見先生は、丘を利用して墳丘を作るものであってこの丘陵部を占めていた蘇我氏の中で、蘇我稲目と考え

ているとの見解は興味深い。続いて、植山古墳は二つの横穴式石室を持った方墳で、橿原市の公園的な整備が施されていた。菖蒲池古墳は方墳で、カーテン越しに家型石棺を覗くことができた。その東側にあった小山田古墳はすでに学校敷地となっていて、墳丘としては現存していなかった。

橿原市南東部の大野丘は、近年、宅地開発がなされたが、現地を歩きながら古代に古墳が集結し蘇我氏の墓域であったと理解することの面白さを感じたひとときであった。

明日香村に移動し甘樫丘での昼食後、蘇我氏ゆかりの遺跡を歩いた。甘樫丘東麓遺跡は邸宅跡と考えられ、豊浦宮跡推定地は推古天皇即位時の所、雷丘東方遺跡は推古天皇の遷した小墾田宮であり、隋との外交儀礼の場であるとされている。さらに石神遺跡、水落遺跡から飛鳥寺西方遺跡を経て飛鳥宮跡に至り、今は、のどかな田園風景だが、当時、乙巳の変が起こり、政治体制が動く日本の歴史の舞台だったのだ、ということを感じ知った。

特に、飛鳥宮跡については、ちょうど北西部分で橿原考古学研究所がこれまでの調査に続いて三つの時期の宮殿の変遷がわかる遺構を発掘調査し、新たな発表をされたところであった。

個人的には若いころから、飛鳥というと石舞台、飛鳥寺等々の観光地を巡っていた私だが、考古学上の遺跡をみることで、もっと奥深く学ぶことができるように思う。会員の皆様お疲れ様でした。

最後になりましたが、鶴見先生のわかりやすく丁寧なご説明、ありがとうございました。

奈良県 島岡 弘行

軽寺跡



軽寺跡で鶴見先生の説明

五条野丸山古墳



五条野丸山古墳後円部で説明

五条野丸山古墳



五条野丸山古墳後円部へロープで上がる

五条野丸山古墳全景



植山古墳



植山古墳で鶴見先生の説明



植山古墳の石室部分



植山古墳墳頂

菖蒲池古墳



菖蒲池古墳の墳丘



菖蒲池古墳の石室を見学



菖蒲池古墳の石室



飛鳥川に沿って歩く。後方は甘樫丘



石神遺跡の説明を受ける



飛鳥宮跡へ向かい歩く。後方は雷丘、左は甘櫨丘

飛鳥宮跡



飛鳥宮跡調査地で説明